



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
8月18日
発行

第48回 臨時号「新型コロナ相場から新冷戦相場へ」

～今後は新冷戦に警戒を～

初めに

日経平均は3月末から6月末にかけて大幅上昇。その後もじりじりと上値を切り上げて来ています。しかし自分はこの「コロナ相場」は既に終了。ここから先の日経平均は下振れリスクを警戒すべしと考えています。今回はそう考える理由を説明します。理由は3つあります。①利益確定売り、②政策への期待感後退、③米中覇権争いへの警戒感、この3つです。以下順に説明します。

利益確定売り

日経平均は依然高値圏で推移しており、評価益を抱えた投資家は多いと思いますが、これは同時に潜在的な売り圧力も大きいということにもなります。このように潜在的な売り圧力が大きいと思われることが、下振れを警戒する第1の理由です。

政策への期待感後退

2番目は政策への期待感後退です。コロナ相場で多くの投資家が頭を悩ませたのは景気も業績も大幅悪化、更に新型コロナウィルスの感染が拡大する中でも株価が上昇したことです。押し目で買おうとして、買えなかった方は多かったのではないかと思います。この様になった理由は定かではありませんが、自分はコロナショック発生当初の政府や中央銀行の大規模な対策が「いざとなれば政府が何とかしてくれる」という誤ったメッセージとなって伝わったことにより、リスクを無視した投資が横行するようになったと考えています。ただ最近では日本や欧州では緊急事態的な雰囲気は薄らぎ追加対策という声は余り聞こえませんが、選挙を控えたトランプ米大統領は現行の景気対策の拡充に意欲を見せていますが、議会に抵抗され難航しています。このように主要国で追加の政策への期待感が後退していることから、今後は景気が悪くても株価が上昇するようなことは少なくなると思います。逆にこれまで買われ過ぎだったと思える部分が剥落することにより、下落することがありそうです。

米中の覇権争いへの警戒感

株価の下振れリスクを警戒する3つ目の理由が米中の覇権争いです。最近当レポートでよく取り上げるテーマですが株式市場ではここまでほとんど材料視されていませんでした。しかし、コロナ相場がほぼ終了した今、市場の関心がこのテーマに向かうのはほぼ確実と見ていますがその場合、米中の覇権争いは売り材料となるでしょう。これが株式市場の下振れを見込む3つ目の理由です。以上3つの理由で当面の株式市場は下振れに注意と見ています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あつせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。